

### 第3回 宇宙輸送小委員会 議事要旨

1. 日時：令和5年7月18日（火） 13：30－15：30
2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室
3. 出席者
  - (1) 委員  
松尾座長、青木委員、石田委員、片岡委員、新谷委員、山崎委員
  - (2) 事務局  
内閣府宇宙開発戦略推進事務局：坂口審議官、山口参事官、植木参事官補佐
  - (3) 関係省庁等  
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課：上田課長、竹上企画官  
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構：森経営企画部次長、沖田第四研究ユニット長
4. 議事要旨
  - (1) SBIRに関する取組状況について  
文部科学省から、資料1を用いて、SBIR制度が拡充されたこと、本制度を通じてロケットの開発・実証を行うスタートアップ企業を支援していくこと、7月下旬に公募を開始予定であることについて、説明があった。委員からは、以下のような意見があった。
    - 宇宙輸送分野で、5年間で350億円の基金が組成されたことは、大きな意義がある。スタートアップ企業においても、この制度を有効に活用頂きたい。
    - 宇宙輸送分野のSBIR基金の目標として、「国内の全ての政府衛星及び商業衛星を国内から打ち上げること」が掲げられたことは、とても意義深い。
    - しかしながら、「衛星を打ち上げること」だけでなく、P2P（Point to Point：高速二地点間輸送）やOTV（軌道間輸送機）のような、将来の宇宙輸送への対応を視野に入れて、文部科学省においては取り組んで頂きたい。
  - (2) JAXAにおける将来輸送系に係る取組み状況について  
JAXAから、資料2を用いて、宇宙技術戦略に向けた検討の一つとして、JAXAにおける次期基幹ロケット、宇宙旅行、P2P（Point to Point：高速二地点間輸送）などの将来の宇宙輸送系の実現にむけた、民間企業や大学等の研究機関との共同研究の内容を中心に説明があった。なお、本議題の説明資料につ

いては、JAXA との共同研究に取り組む個別企業の秘密情報を含んでいるため、非公開としている。委員からは、以下のような意見があった。

- 技術戦略の策定にあたっては、本日説明頂いた共同研究の成果を、JAXA 内部に蓄積するだけでなく、その成果を他のスタートアップ企業とも共有できる仕組みも検討していくことが重要。
- 技術戦略の中では、研究対象とする技術開発の項目を洗い出すだけでなく、優先順位や目標とするスケジュールも、あわせて検討していくことが必要。
- JAXA による民間企業への出資が始まっており、共同研究に対する公平性を保つ観点からは、出資と民間企業との共同研究に対する考え方を整理していくことが必要だと考える。

### (3) 民間ロケット事業者からのヒアリング

国内でロケット開発に取り組んでいる企業である、スペースワン株式会社及びインターステラテクノロジズ株式会社より、それぞれの企業の事業構想の実現に向けて必要な技術、サプライチェーンの自律化に向けて我が国として取り組むべきことについて、説明があった。なお、本議題の説明資料については、個別企業の秘密情報を含んでいるため、非公開としている。委員からは、以下のような意見があった。

- 民間ロケットが必要とする技術・部品の中でも、基幹ロケットと共有化できるものについては、日本全体の宇宙輸送産業を発展させるために、その水平展開の方策について考えていくことが重要。
- 技術戦略の策定にあたっては、ロケット製造に必要な部品の海外からの調達にあたっての課題についても、整理することが必要だと考える。
- ロケットに必要な部品などを開発するコンポーネントメーカーが、新たな技術を開発し、それを製造・量産していく上では、投資や販売先が確保されることが重要。そのためには、技術戦略を策定する中で、技術の開発・量産化に伴う、投資の確保や海外展開についても見据えて取り組んでいく必要があるのではないか。
- 小型ロケットが、その特徴の1つである即応性を発揮するにあたって、国内規制がハードルになる場合、その対応についても検討していくべきではないか。

以 上